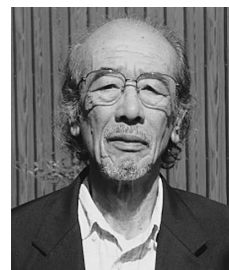


2009 年度日本質量分析学会

功 勞 賞

橋本圭二氏 [元京都薬科大学、薬学博士]



橋本圭二氏は、1960年3月京都薬科大学を卒業後、同年4月小川香料株式会社に入社し同社の中央研究所に勤務した。1962年3月同社を退社、同年4月京都薬科大学薬化学教室の助手に着任、その後、講師、助教授を経て2001年5月教授、2002年5月に定年退職し、2003年4月より長浜バイオ大学の講師（非常勤）を務めている。

京都薬科大学在職中の1973年5月、「17-ketosteroidosのgas chromatographyならびにGC/MSによる分析学研究」により京都大学より薬学博士の学位を取得。1974年4月より1年間チューリッヒ工科大学有機化学研究所においてWissenschaftlich Assistentとして研究に従事した。

橋本氏は、我が国における質量分析の黎明期と言える1969年から、京都薬科大学において、現在のスマートな質量分析計からは想像できない真空計の化け物のような単収束の磁場型の質量分析装置を使い始め、以来質量分析を薬学の研究教育に活用してきた。実際に装置を使って行われた本学会主催の第1回の講習会の受講者の一人であり、その後34年の長きにわたり、質量分析装置の改良や発展に心血を注いできた。特にキャピラリーガスクロマトグラフィー質量分析(gas chromatography mass spectrometry: GC/MS)の世界では我が国における第一人者であり、1988年に出版された、現代化学増刊15「質量分析法の新展開」では、第3章新しい質量分析計で「キャピラリー GC/MS」の項を執筆している。

質量分析装置の発展に伴って二重収束の高分解能質量分析装置、タンデム質量分析計、液体クロマトグラフ質量分析計と多くの装置を使いこなし、科学の世界におけるマススペクトル情報の重要性、信頼性を34年もの長きにわたり遍く世間一般に周知させた功績は非常に大きい。

さらに橋本氏は、質量分析の啓発活動にも邁進してきた。その中で日本質量分析学会の部会、BMS (Biological Mass Spectrometry) 研究会における橋本氏の貢献は特筆すべきものがある。BMS コンファレンス (BMS 談話会) は、BMS 研究会の活動の一部としてこれまで36年にわたり毎年開催されており、第15回以後は参加者も200を超える大規模な会に発展した。橋本氏はこのコンファレンス (談話会) の実行委員長を、第16回 (滋賀県守山市・ラフォーレ琵琶湖)、第21回 (滋賀県近江八幡市・近江八幡国民休暇村)、第27回 (神戸市北区・フルーツフラワーパーク) と3度務めており、その功績は絶大である。これは4度実行委員長を務めた立松 晃先生に次ぐものであり、第30回BMS コンファレンスにおいては、その「生みの親、育ての親」としての貢献が評価され「功労賞」が授与されている。

日本質量分析学会の委員や編集委員、関西談話会世話人代表も長く務め、学会の発展のための縁の下の力持ち的な仕事も陰日ななく継続して果たした。

以上のように橋本氏は、長年にわたり質量分析の進歩発展および日本質量分析学会の発展に大きく寄与してきた。よって2009年度日本質量分析学会功労賞に相応しいと認められた。

(日本質量分析学会表彰委員会)